

羽浮記卷之五

延澤能登守方元山王権現之事

或曰徒然能登守力量人、揚する由義光常は
 其力の能と延澤ありと思召、近所外様の侍の内
 陸方のものも七八人、さうきて生衆とては供とて義光
 何とも湯帷子一つ、能登守方元山王権現之事
 能登守方も内とは知ふせありけむ、能登守方も内とは
 只半、能登守方の庭へおまゝ今やとて居るあり